

2024 年度活動支援団体公募 事業設計図補足資料について

一般財団法人日本民間公益活動連携機構（JANPIA）

◆補助資料の目的

本制度において、活動支援団体の役割として、JANPIA が提示した「優先的に解決すべき社会の諸課題」を踏まえ、地域・分野ごとの実情と課題を俯瞰的かつ具体的に把握・分析し、案件の発掘・形成を積極的に行うことが期待されています。

その上で、社会の諸課題の解決に取り組む自立した担い手の育成に向け、「活動支援プログラム」を企画・設計することが求められています。本補足資料は、活動支援プログラムを設計する上で、把握しておきたい情報を整理するためにご活用いただくことを目的に作成されています。

- 支援対象として想定する団体が抱える課題とその要因を把握する
- 支援対象として想定する団体が抱える課題と、活動支援プログラムで提供する非資金的支援の関係性を把握する
- 活動支援された支援対象団体が社会課題解決に寄与する道筋を把握する

◆本資料の活用イメージ

- 団体内部・関係者間のコミュニケーションツール（ロジックの確認、検証、合意形成）として活用する
- 「JANPIA 個別相談」時に活用する
- 申請時にご提出いただいた場合は、審査時の参考資料として活用させていただきます

※本様式以外の自由様式での提出の場合も同様

2024 年度活動支援団体公募 事業設計図補足資料

Step1 想定する支援対象を深堀する

① 支援対象として想定する団体は、どこで、どのような活動をしている団体ですか？

② 支援対象として想定する団体は、どんな組織形態・組織規模・成長のステージの団体ですか？

③ 支援対象として想定する団体は、どのような事業実施上、組織運営上の課題を抱えていますか？その要因は何ですか？

④ 活動支援団体による支援を受けて、将来的に休眠預金等活用の担い手として（制度に参入して）、どのような事業を行いますか？（休眠預金を活用するイメージ）

①活動支援団体の専門性/強みは何ですか？

②支援対象として想定する団体のどのような変化を目指しますか。

③そのためにどのような非資金的支援を行いますか。その支援内容は支援対象として想定する団体の課題解決につながりますか？

④活動支援プログラムを実施するためにはどのようなリソース（人、物、金、情報及び専門性など）が必要ですか？

Step2 活動支援プログラムの内容を決める

Step3 事業設計図を描く

〈実現したい社会の状態（長期アウトカム）〉

育成された担い手が社会課題解決に取り組むことによって実現したい社会の状態

② 〈事業終了 2～5 年後に実現したい状態（中期アウトカム）〉

活動支援によって、支援対象団体がどのような状態になり、どのように社会課題解決に寄与しているか、社会にインパクトをもたらしているか。

支援対象団体の状態

対象地域の状態*

③ 〈事業終了時までには実現する状態（短期アウトカム）〉

上記に設定した目標状態を達成するために必要な「前提条件」は何ですか。

支援対象団体の状態

対象地域の状態*

④ 〈活動支援プログラムの内容〉

⑤ 〈支援対象団体が行う課題解決の取り組み〉

* 地域を対象としない場合や記載が難しい場合は空欄でも構いません。